



萩園中学校だより

萩園中学校 学校だより⑥ 令和7年9月1日 校長 小俣 宏之

最重点目標【自ら考え行動できる自律した生徒の育成】

夏休みが終わりました

いつもより長いと思っていた44日間の夏休みも終わり、いよいよ今日から日常の学校生活が始まります。来週からは第2回定期テストが始まりますので、夏休みの後半はテスト勉強で忙しかったのではないのでしょうか。

夏休み前の全校集会では、「学校があるときにはできない過ごし方で、心も体もリフレッシュしてください。」という話をしましたが、リフレッシュはできたでしょうか。夏休み明けに学校へ行くのが少し不安になってしまうことはよくあることなので、何か困ったことや相談事があれば、担任の先生や学年の先生に早めに相談するようにしてください。夏休み前に行った「ストレスマネジメント」を思い出して、心のマネジメントをしてほしいと思います。それではまだまだ暑い日が続きますので、引き続き熱中症には十分に注意して学校生活を送ってください。



全国学力・学習状況調査結果について

中学校3年生を対象として4月16日に実施した「全国学力・学習状況調査」の結果が文部科学省から公表されました。本校生徒の特徴として挙げられるものをお知らせいたします。国語、数学、理科の3教科で合計35問の設問に加え、生徒質問紙にも70項目の設問があり、すべての項目についての分析を記載することができないことをご理解ください。また本調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎないことを踏まえてご確認ください。

【教科について：国語 数学 理科】

○国語については、14問の設問中の平均正答数が6.5問で、全国平均より1.1問少ない結果となりました。「書くこと」「話すこと・聞くこと」に関する思考力、判断力、表現力等に課題が見られましたが、「読むこと」については、全国平均と変わらない結果でした。

○数学については、15問の設問中の平均正答数が5.8問で、全国平均より1.8問少ない結果となりました。「数と式」「図形」「関数」「データの活用」の4領域について、全国平均より低い結果となっています。

○理科については、6問の設問中の平均正答数が2.5問で、全国平均より0.4問少ない結果となりました。「粒子」を柱とする領域について、課題が見られましたが、その他の領域については、全国平均と変わらない結果でした。

※一昨年度→昨年度→今年度の全国平均正答数との差を比較すると、国語は－0.9問→－0.7問→－1.1問、数学は－1.1問→－0.7問→－1.8問と、昨年度まで改善傾向にあった全国平均との差が開く結果となりましたが、国語も数学も昨年度より全国平均自体が下がっており、今年度の問題は少し難しい傾向にあったようです。理科については、前回2022年度調査の問題数が16問でしたので、今回の6問の調査との単純な数字での比較は難しいと考えます。

全国平均との比較だけではなく、学習指導要領の各領域や評価の各観点における正答率等についても分析をすすめ、今後も校内研究を通じた授業改善に努めていきたいと思います。

【家庭での生活・生活習慣について：朝食 就寝時間】

○朝食の喫食率は、肯定的な回答が87%で、全国平均91%と比べて若干低い結果となっており、昨年度の本校の92%と比較しても、低い結果となりました。また、今年度のほぼ決まった時刻に寝ている生徒の割合は80%で、全国平均の81%と比べても、ほぼ変わらない結果となりました。本校の昨年度の結果からは5%の改善が見られました。多くの生徒が規則正しい生活を送ることができているようです。今後も規則正しい生活習慣について、ご家庭での協力をいただければと思います。

【萩中生の意識について：自己肯定感】

○「自分には良いところがある」の問いに対して肯定的な回答をしている生徒の割合は88%で、昨年度の76%から大幅な改善が見られました。全国平均の86%と比べても高い結果となりました。否定的な回答がまだ12%あることを忘れずに、今後も引き続き生徒の自己肯定感の醸成に努めてまいります。

また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の問いに対して肯定的な回答をしている生徒の割合は、昨年度は88%でしたが、今年度は90%で、若干の改善が見られました。全国平均92%に比べてもほぼ変わらない数字と言えると思います。「先生が、自分のよいところを認めてくれている」という生徒たちの意識は高まってきているので、今後も教職員によるポジティブな行動支援を心がけていきたいと思っています。

【家庭学習・学習時間について：平日休日の学習時間】

○学習時間については、平日と休日の学習時間についての設問がありました。平日に1時間以上勉強している生徒が60%に対して、休日は24%という結果でした。平日に塾などに通うことが多い影響と考えられますが、平日より休日の学習時間が短いという結果となりました。部活動も土日のどちらか1日はお休みになっていますので、休日の時間をもう少し有効に活用できる余地があるのではないかと思います。また、学習習慣の確立につながる課題の提示の仕方等についても各教科で工夫していく必要があると考えています。

本校では、本調査結果について全教職員で共通理解を図り、調査結果を活用して、日頃の教育活動を検証し、今後の学習指導の工夫・改善に生かしてまいります。また、校内研究を通して授業改善を図るとともに、生徒一人一人の学習意欲の向上に努めてまいります。

令和7年度調査の結果に関する以下の資料が、国立教育政策研究所のホームページに公開されています。

(<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>)

- ・結果（概要）
- ・結果（概要）のポイント（本通知の別添1）
- ・報告書（小学校国語、小学校算数、中学校国語、中学校数学、小学校理科、中学校理科、質問調査）

URL:<https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku>

- ・その他調査結果資料

令和7年度児童・生徒自立支援講座

子どもの今と未来をつなぐ大人のかかわり
～不登校・ひきこもりへの支援の在り方～

先着
30名

講師

ヴィヒャルト千佳こ 先生
(鶴が峰心理グループ代表責任者)

日時会場

9月26日（金）14:00～16:15
茅ヶ崎市青少年会館ホール

申込み

8月19日から
・ホームページ
・電話(86)9963
・FAX(88)1394



教育センター